

有田地方の版

2007年6月発行

第25号

有田振興局産業振興部

農業振興課

有田郡湯浅町湯浅 2355-1

TEL: 0737-63-4111

E-mail: arida@mikan.gr.jp

http://www.mikan.gr.jp (有田みかんデータベース)



有田地方各農業団体の新会長のご紹介

平成19年度の有田地方の農業団体(農業士会・生活研究グループ・4Hクラブ)の新しい会長がこの度決定致しました。有田地方の農業振興の大きな柱としてこれから頑張っておられる各会長をご紹介させていただきます。これから皆様よろしくお願ひ致します。



◎有田地方農業士協議会

会長 林 隆家 (はやし たかや)

平成19年ならびに20年度の有田地方農業士協議会の会長を務めさせていただきます有田川町の林です。会員のご協力を得ながら、若い後継者が育ち、健康で豊かな生活が送れ、農地が荒れていくことのない素晴らしい産地作りの一助になればと思っていますので、よろしくお願ひします。



◎有田地方生活研究グループ連絡協議会

会長 宮地 スミ子 (みやじ すみこ)

平成19年度の有田地方生活研究グループ連絡協議会の会長を務めさせていただきます有田川町の宮地と申します。男女共同参画社会の実現に向けた取り組みや地産地消、食育推進などを行うとともに、微力ながら会員一同日本一のみかん産地である有田農業を活発にしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



◎有田地方4Hクラブ連絡協議会

会長 猪谷 浩司 (いだに こうじ)

平成19年度の有田地方4Hクラブ連絡協議会の会長を務めさせていただきます有田川町の猪谷です。4Hクラブの若い力で、有田地方の農業を活発にしていきたいと思ひます。なにぶん不慣れな会長ですが、新役員・理事共に協力しながら一生懸命頑張っております。

「食育とは」...

生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもので、様々な経験を通じて、『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

県内の児童生徒の朝食の欠食状況

(「時々食べる」「食べない」と回答した割合)
小学4年生で 8.9%
中学2年生で 15.1%

成人の朝食欠食率

男性で 8.3%
女性で 5.1%
*欠食率が最も多いのは
20歳代男性で 16.7%

「食育」に関心を 持っている県民の割合

85.7%
「メタボ」を認知
している県民の割合
53.7%

メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群)とは...

内臓に脂肪がついた肥満の
人が高脂血症や高血圧症、糖
尿病を複数もった状態のこと。

近年、生活環境の変化等から「食」を大切にしている心の欠如、栄養バランスの偏った食事等に起因する生活習慣病の増加、食品の安全性への不安、伝統ある食文化の喪失など食に関する様々な問題が指摘されています。

このような状況の中、食育を着実かつ実効性のある取り組みとしていくために県では平成19年3月に食育推進プランを策定しました。

『食べて元気、わかやま食育推進プラン』 (和歌山県食育推進計画) H22年までの5カ年計画

推進する上での
4つの視点は

生涯を通じた健康づくりのための食育
家庭、保育所・幼稚園・学校、地域が連携した食育
県の農林水産物と地域の食文化に根ざした食育
食の安全・安心に支えられた食育

【具体的な数値目標】 推進プランでは主要な項目について目標値を定めています。

例えば 食育に関心を持っている県民の割合を90%以上に。
朝食の欠食率を小学生では0%に、20歳代男性では15%以下に。など...
なお、推進プランの内容は県ホームページでご覧になれます。

食は、私たちが「生きる」ための基盤です。 私たちは「地産地消」をベースにした食生活と地域に根ざした食文化を築いてきました。(食生活の変化の中で)生活習慣病に加え、アトピー・アレルギー疾患の子供達が増加しています。 子供達だけでなく、大人も多様化する食生活や、多忙な生活リズムの中で、人間形成の原点である「食べる」ということを、今一度見直すときではないでしょうか。

「わかやま食育推進宣言」より抜粋

「わかやまの農産加工推進事業」

和歌山の多様な農産物を利用した加工品の開発を促進するため、農業者や生研グループ、JA等が、また食品加工業者との連携により、加工品の販路開拓や新たな加工品開発を支援する事業です。

既存の加工品を
販売してみたい

加工品を販売するための検討会、アドバイザーによる支援。
商品の改良(ラベルデザイン、食品分析等)に要する経費補助。
商品を増産するための施設整備に要する経費補助。

地域農産物を活用
して新しく加工品を
開発し販売したい

新たな加工商品として開発。販売の可能性があるかの検討。
新加工品の試作製造に要する経費補助。
加工品を販売するための検討会、アドバイザーによる支援。
商品化(ラベルデザイン、食品分析等)に要する経費補助。
商品を生産するための施設整備に要する経費補助。

(注)事業採択にあたっては満たすべき要件等がありますので詳しくはお問い合わせ下さい。

このページに関するお問い合わせは有田振興局産業総務課産業グループ(TEL0737-64-1286)までお願いします。

地域で広がる食育の輪

皆さんもご存じの通り、平成17年7月に「食育基本法」が施行され、昨年3月に国の「食育基本計画」、そして平成19年3月に「和歌山県食育推進計画」が策定されました。

毎日欠かすことのできない「食」。それに深く関わる農業……。しかし、農業や地域に伝わる伝承料理について知らなかったり、朝食の欠食や食べ残しが増えたりするなど、「食」に関する問題がたくさんあり、早急な見直しと実践が必要となっています。

そんな中、有田管内では各地域で「食育実践」に取り組んでいます。

醤油発祥地の湯浅町にある町立山田小学校では、地元の業者さんや農業士の方々のご協力をいただき、大豆を育て醤油を作る過程を学んでいます。

また、子供達の手で孵化させたアイガモによるお米作りを行い、地域の方と共に昔ながらの方法でお餅つきやお粥炊きをする有田市立系我小学校、その他にもみかんの摘果や収穫体験、伝承料理実習に取り組む学校もあり、有田の地で食育活動の輪が広がっています。

また、昨年からは、県の食育事業の一環として、みかんの苗木を小学校に配布する事業がスタートしています。みかんの果実が葉っぱからできると思っている子供さんも中にはいます。そのため、子供達自身で大きなポットに苗木を植え、自分たちで育ててもらい取り組みを通じて、みかんが育つ過程を身近で見てもらい、そこから食べ物大切さや農業の重要性を少しでも理解してほしいと願っています。



(みかん苗木ポット体験)



(醤油造りにむけた大豆の種まき)



ラジオ番組公開生放送のお知らせ



日本全国にラジオカーを走らせ、その土地土地皆さんの「元気」を伝えるNHKのラジオ番組「ここはふるさと 旅するラジオ」を毎週月曜～金曜日午前11時30分～50分にラジオ第一で放送中です。

そのラジオカーが6月12日(火)に有田川町へやってきます。

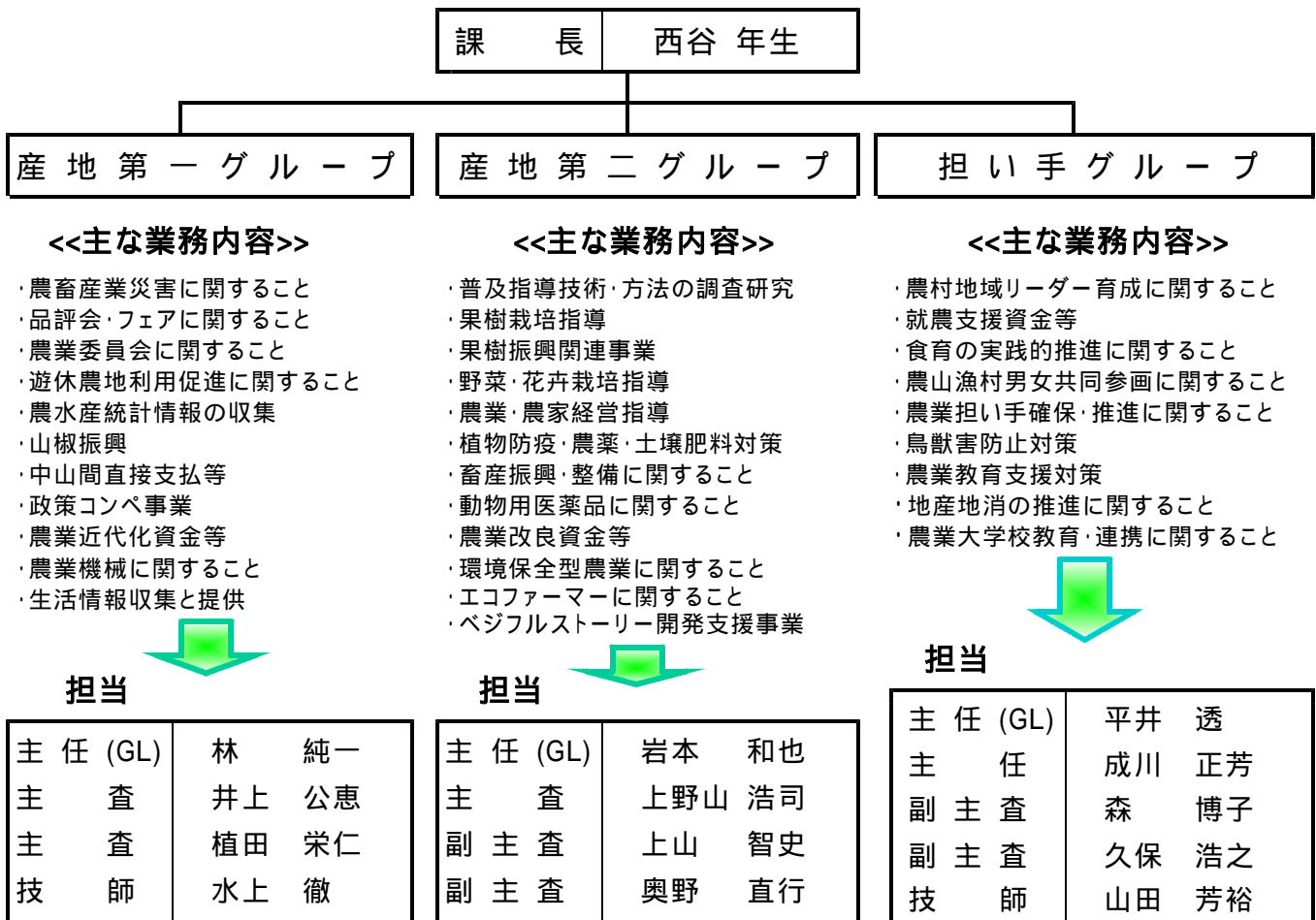
ラジオ放送当日は、3年連続生産量日本一となった和歌山のみかんや山椒を使ったアイデア料理を紹介して、有田の食の魅力在全国にPRしていきます。

会場は、有田川町の「JAありだAQ中央選果場」にて午前11時30分より公開生放送でお送りします。また、NHK和歌山放送局の横林良純アナウンサーにもご出演していただくことになっています。

番組はご観覧自由となっていますので、是非お越し下さい。

平成19年度 農業振興課新体制

農業振興課体制図および主な業務内容



農業関連団体の担当

	農業士会	4Hクラブ	生活研究グループ	高齢者グループ
広 域	成川 正芳	久保 浩之	森 博子	森 博子
有 田 市	植田 栄仁	水上 徹	森 博子	森 博子
湯 浅 町	久保 浩之	久保 浩之	森 博子	森 博子
広 川 町	成川 正芳	山田 芳裕	森 博子	森 博子
有田川町 (旧吉備) (旧金屋) (旧清水)	林 純一 井上 公恵 井上 公恵	水上 徹 水上 徹	森 博子 森 博子	森 博子 森 博子

編集後記

この度、「有グリカルチャーかわら版」第25号を発行できうれしい限りです。さて、有田振興局では、「有田みかんデータベース」にてミカンに関する情報を発信しています。また、昨年10月27日に地域団体商標(地域ブランド)に「有田みかん」が登録されたこともあり、今後ますますミカンに関する情報の充実を図ってまいりたいと思っておりますので、是非一度有田みかんデータベース(<http://www.mikan.gr.jp>)へお立ち寄り下さい。